

1. 教育の責任

講義では、建築計画及び住居学を通して、建築・インテリアに対して、社会で必須とされる実践的な専門知識の習得を目指している。また、それらを具体的な設計・計画に活かすと共に、デザインや図面として表現していくことを演習授業で実践している。

「建築計画Ⅲ」（講義、建築コース 選択科目 春学期 2単位 69名）

「空間デザイン演習Ⅰ」（演習、建築コース 選択科目 春学期 5名）

「設計製図演習Ⅰ」（演習、建築コース 必須科目 春学期 2単位 18名）

「住居学」（講義、建築コース 選択科目 秋学期 2単位 75名）

「ゼミナールⅠ・Ⅱ」（講義、建築コース 必須科目 春・秋学期 各2単位 16名）

「卒業研究」（講義・演習、建築コース 必須科目 春・秋学期 各2単位 15名）

「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」（講義、必須科目 春・秋学期 各2単位 22名）

2. 教育の理念

建築・インテリアは文化創生としてそのデザイン性が評価されると共に、暮らしやすく安全な社会を長期間支える社会資産としての役割を担っています。企画や計画、施工といった建築される前段階での構想や価値観の共有は、建築後の建物の魅力や愛着につながることを考えています。このような魅力ある建物をつくるためには、まず専門的知識を元にした構想を他者に伝えるための表現力が必要となります。自分の目指す建築がどのようなものかをわかりやすく伝えることで、社会的な共感を得ること、建物への魅力を長期間伝え続けることができると考えます。

このような魅力を伝えるためには、建築教育として建物に対する多くの視点を伝えること。またそれを魅力的に伝える必要があると考えます。これらに各学生が興味を持って学修できる環境をつくることを意識しています。

3. 教育の方法

【教育の目的と目標】

上述の理念に基づき、下記の点を意識した教育を実践している。

知識や技術の伝達：専門知識や技術の伝達は、現在も行っている設計活動での経験を活かし、具体的な事例を用いることを意識しています。具体的な建物の見学や実測を図面や模型表現とつなげることで、実際の空間認識をつくることを目指しています。

学生の専門能力の向上：演習の授業だけでなく、講義科目においても学修した専門知識がどのような「かたち」になっていくのか。専門知識とデザインが、実際の建物でどのように実現されているのかを紹介しています。専門知識と創造力をどのように表現すれば、他者に伝わるのかを意識しています。また具体的な建物の実測や見学に行くことで、図面表現と現実空間とのつながりを意識していけるように促しています。

【教育実践】

課題：具体的な建物のデータを集め、講義で行った手法を用いて自分でも分析してみることで、実際の建物と学修した知識が具体的に結びつくようにしています。

試験：建築士試験等の専門分野の資格試験問題に基づいた設問を部分的に用いることで、建築士が社会的に求められる専門知識の内容に加えて、将来建築士として活躍できるように目指しています。

双方向的な学習：各学生が持った興味が他の学生にも伝わるように、課題で取り上げられた事例や質問を授業時に解説するようにしています。各々がどのようなことを考えているのか、またどのようなプレゼンテーションがよりわかりやすく伝わるのかを知ることで、多様な視点
他講義につながる学習：座学ではテーマを明確にすることで、他講義との違い、他講義とのつながりを意識するように促しています。

また演習にもつながるよう、座学でも図面によるメモ作成等を試みています。

ティーチングポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：建築&芸術学部 名前：高木 恭子 作成日：2025年01月06日

4. 教育の成果

「ゼミナール」で行ったアートセンターの模型制作では、模型や図面を作成に合わせて実際に使っている建物の図面表現や模型表現をつなげる学修を行った（添付資料①）。

「空間デザイン演習Ⅰ」の課題では、建物を実測してから図面作成や課題への取り組みをすることで、設計製図演習とは異なる実際の建物に応じた設計のプロセスが修得できた。

5. 改善への努力と今後の目標

具体的な建物やアートを見に行くことを促すこと。また具体的なプレゼンテーションを紹介すること等から、知識が社会につながることを伝えていくことを目標としたい。そのために、講義の中で身近な建物の紹介を積極的に行っていくこととする。

【添付資料】

写真①：アートセンター模型の模型制作

